

## 英語学習における不安について

### 英語学習における不安について

重迫隆司 吉田一衛 三浦省五

英語学習の不安をコミュニケーションの不安、テストの不安、英語授業における否定的評価の視点から分析した。その結果、授業で話す不安、テストの不安、単位を落とす不安、英語授業そのものへの不安、不安をもつ学生は友達より自分を低く評価することが明らかになった。本学の学生とアメリカ人学生の不安の度合いが異なるものがかかりあった。不安軽減の方策として教材の繰り返し、時間をかける学習等を提案した。

[キーワード：英語授業、不安、緊張、テスト、授業英語の理解、人前での話]

#### I. はじめに

英語学習は、教材を中心にして教師と学習者との相互作用により、その学習効果が左右される。したがって、学習効果を上げるためには、適切な教材と、教師の優れた教授法が必要となる。それと同時に、学習者がどのような学習背景をもっているかを知ることが必要になる。このような観点から、学生を対象に次に示す英語の学習実態を解明してきた。

Yoshimura and Shigesako (1998)は、学生の英語学習における needs, interest, ability について分析した。その結果、英語を必要と思っている者は 65.0%であるが、英語嫌いが 45.0%、好きは 24%程度であった。4技能の習得希望は、speaking が 85.5%、listening が 75.0%、reading 52.2%、writing 48.9%で、spoken English に対する希望が多いことがわかった。文法学習は 25.0%で低かった。しかし、吉田 (2006) の一連の研究では、本学学生の学力の問題点は、基本的な文法能力 (中学3年と高校1年のレベル) が欠如していることであった。現在、英語教育の世界ではコミュニケーション能力の養成が主眼となっているが、基本的な文法能力が習得されていないと、4技能が習得されないし、真のコミュニケーション能力も習得されないことがわかった。

英語辞書については、中学で 48.0%、高校で 66.0%の生徒が使用の仕方を習っていないと答えた。これを踏まえて辞書指導をするが、辞書をもってこさせるだけで、時間がかかる現状である。英語学力の自己評価では 80.0%の学生が英語力はないと答えている。学力の低いクラスでは全員が、英語力はないとしている。しかし、学力の低いクラスでも 70.0%の学生が英語は必要だと思っている。このことは、英語に対する希望的観測と実際の実力が一致しないことを物語っている。

社会言語学の視点からも Shigesako and Yoshimura (1998)は英語学習の背景を分析している。この分析結果によると、英語、ドイツ語、フランス語といったヨーロッパ言語には興味を示すが、韓国語、中国語、アイヌ語といったアジアの言語には否定的興味を示している。これは、学習指導要領で、「言語と文化への興味を高め日本と他の国々の文化と生活習慣の理解を深め、国際的視

野を深める」と述べられていることと矛盾している。最近では、英語の有用性が強調されているが、結論として言葉は皆平等ということから、英語以外の言語の文化を同じように受け入れる態度育成の必要性を提案している。

こうした研究結果を、日常の英語指導に生かしてきたが、英語学習を効果的にするため、さらに、これ以外の視点からも英語教育の背景を明らかにすることが求められる。したがって、本研究では、英語学習における不安につての特徴を明らかにすることにした。

## II. 英語学習における不安について

日本の英語教育では、不安についての研究は、まだ本格的には取り上げられていない。不安に関係ある情意面の研究は、世界でかなり前からなされており、日本でも開始されたところである。Chastain (1975: 308-309)は、情意因子が外国語学力と同じ程度に外国語学習に影響していることを認めている。さらに、不安が Oral Approach と負の相関、伝統的な教授法とは正の相関があることを明らかにしている。片山 他 (1994: 308) は、外国語学習の不安は、自尊心が満たされなかつたり、脅かされるときに生じ、比較的安定した特徴で、学習活動を左右する要因であることを紹介している。さらに、不安と外国語学習は負の関係であると Dulay and Burt (1977)は述べている。

外国語学習の不安を3つの言語行動不安として Horwitz, Horwitz and Cope (1986)は提示している。すなわち、(1) コミュニケーションの心配 (2) テストの不安 (3) 学力に対する否定的評価である。たとえば、テストで不安をもっている学生は、外国語で話すことへの不安をもっていることなどを明らかにしている。Kleiman (1977)によると、カナダの French Immersion で間接目的語を省略するという回避行動をとる。アラブ系の学生は英語の受身形を、スペインーポルトガル系の学生は不定詞補語を回避する傾向にあるが、これに不安が関係していることを明らかにしている。

不安と学力上位と下位の学習者の学力の関係を Pimsleur, Mosberg and Morrison (1962)は明らかにしようとしている。内気な性格と外国語学力の関係について Hamayan, Genesee and Tucker (1977)が分析していて、内向的な学生が外国語を学習したくないと思うと、リーディングの学力が低下するのに、外向性の学生はうまく学習するというのである。不安の内容について、Horwitz, Horwitz and Cope (1986: 129)は *tenseness, trembling, perspiring, palpitation, sleep disturbance* であるとしている。

ところで、本研究においては不安の定義として、Scovel (1978)と MacIntyre and Gardner (1994)のものを採用することにした。すなわち、「言語不安は、外国語の言語活動と関係した緊張と心配であり、間接的に対象に対する漠然とした恐怖である。」

以上の不安に関する先行研究の結果を参考にしながら、学習者の種類、学習の背景等が異なれば、その結果も異なることから、本学の学生が英語学習において、どのような不安を持っているかを

## 英語学習における不安について

明らかにし、その結果を英語指導の基礎資料としたい。

### III. 調査方法

#### 1. 被験者

一般教育の英語を受講している学生 工学部 46名 経済学部 100名 計146名

#### 2. 不安の調査項目

調査にあたっては、Horwitz, Horwitz and Cope (1986)による Texas University の Foreign Language Classroom Scale (FLCAS)を利用することにした。調査内容は33項目から成っているが、その項目の表現等で日本の学生の実態に合わないと思われる項目は、表現を一部修正して利用した。項目の内容は IV. 結果のところに掲げた。各項目を5段階評価し、強くそう思うを5、そう思うを4、どちらでもないを3、そう思わないを2、まったくそう思わないを1とした。

### IV. 結果

不安を構成する33項目と、それぞれの項目の調査結果を百分率とともに次に示す。

#### 学生の選んだ不安項目の割合 (%)

1	英語の授業で話をするとき自信がありません	6.16	23.97	17.12	43.15	9.59
2	英語の授業で失敗しても気になりません	4.79	32.19	23.29	28.08	11.64
3	英語の授業で、指名されると、体が震えます	18.49	21.92	20.55	19.86	19.18
4	英語の授業で、先生の言っていることがわからないと怖くなります	11.64	33.56	19.18	23.97	11.64
5	もっと英語の授業を履習してもかまいません	9.59	18.49	40.41	24.66	6.85
6	英語の授業中、授業と関係ないことを考えることがあります	4.11	24.66	27.40	36.99	6.85
7	友達自分より英語ができるといつも思っています	9.59	21.92	32.88	21.23	14.38
8	英語の授業でテストがあっても、緊張することなく受けています	13.01	33.56	21.92	22.60	8.90
9	準備なしで授業に出席し、何かを話さなければならない時、うろたえます	6.85	21.23	23.29	40.41	8.22
10	英語の授業で、単位を落とすのが気になります					

重 迫 隆 司・吉 田 一 衛・三 浦 省 五

- |     |                                    |        |        |        |        |
|-----|------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
|     | 12. 33                             | 19. 18 | 11. 64 | 23. 29 | 33. 56 |
| 1 1 | 英語の授業で、なぜ友達がそんなにおろおろするのかわかりません     |        |        |        |        |
|     | 12. 33                             | 27. 40 | 36. 30 | 15. 75 | 8. 22  |
| 1 2 | 英語の授業では、知っていることを忘れるほど神経質になることがあります |        |        |        |        |
|     | 12. 33                             | 21. 92 | 35. 62 | 21. 92 | 8. 22  |
| 1 3 | 英語の授業で、自発的に答えるのはてれくさいです            |        |        |        |        |
|     | 6. 85                              | 20. 55 | 26. 71 | 34. 93 | 10. 96 |
| 1 4 | アメリカやイギリスの人と、びくびくせずに英語で話せます        |        |        |        |        |
|     | 22. 60                             | 32. 88 | 15. 75 | 15. 75 | 13. 01 |
| 1 5 | 先生がどこを直してくれているかわからないと、おろおろします      |        |        |        |        |
|     | 6. 21                              | 28. 28 | 35. 86 | 24. 14 | 5. 52  |
| 1 6 | たとえ授業の準備を充分していても、心配です              |        |        |        |        |
|     | 8. 22                              | 26. 71 | 25. 34 | 28. 08 | 11. 64 |
| 1 7 | 英語の授業に出たくないと思うことがよくあります            |        |        |        |        |
|     | 11. 64                             | 31. 51 | 25. 34 | 21. 92 | 9. 59  |
| 1 8 | 英語の授業では自信をもって話せます                  |        |        |        |        |
|     | 8. 90                              | 29. 45 | 30. 82 | 25. 34 | 5. 48  |
| 1 9 | 英語の先生が、私の誤りを全部直すのではないかと不安になります     |        |        |        |        |
|     | 8. 22                              | 32. 19 | 30. 14 | 24. 66 | 4. 79  |
| 2 0 | 英語の授業で指名されると心臓がドキドキします             |        |        |        |        |
|     | 6. 16                              | 26. 71 | 23. 97 | 30. 14 | 13. 01 |
| 2 1 | 英語のテストの勉強をすればするほど、混乱します            |        |        |        |        |
|     | 10. 27                             | 35. 62 | 26. 03 | 23. 29 | 4. 79  |
| 2 2 | プレッシャーを感じることなく、英語の授業の予習をします        |        |        |        |        |
|     | 6. 16                              | 22. 60 | 47. 26 | 18. 49 | 5. 48  |
| 2 3 | 友達の方が自分より英語を上手に話せると、いつも思っています      |        |        |        |        |
|     | 5. 48                              | 21. 23 | 33. 56 | 28. 08 | 11. 64 |
| 2 4 | 他の学生の前で英語を話す時は、人前を気にし、とてもてれくさい     |        |        |        |        |
|     | 4. 11                              | 24. 66 | 26. 03 | 36. 99 | 8. 22  |
| 2 5 | 英語の授業が速く進むので、取り残されるのではないかと心配になります  |        |        |        |        |
|     | 4. 11                              | 5. 62  | 26. 71 | 28. 77 | 4. 79  |
| 2 6 | 他の授業より英語の授業の方が緊張します                |        |        |        |        |
|     | 9. 59                              | 26. 71 | 22. 60 | 30. 82 | 10. 27 |
| 2 7 | 英語の授業で話すとき、いらいらし、混乱します             |        |        |        |        |

## 英語学習における不安について

	11. 64	38. 36	22. 60	19. 86	7. 53
28	英語の授業に向かうとき、自信がでてリラックスした気分になります				
	9. 59	28. 77	37. 67	18. 49	5. 48
29	先生のしゃべる英語の単語が一つでもわからないと心配になります				
	8. 22	36. 30	19. 18	29. 45	6. 85
30	英語を話すためには、沢山のルールを覚えなければならないので打ちのめされます				
	5. 48	34. 93	22. 60	27. 40	9. 59
31	英語を話すとき友達が笑わないかと心配です				
	8. 90	26. 71	26. 71	23. 97	13. 70
32	アメリカやイギリスの人が側にいても、心地よく感じます				
	10. 27	23. 29	44. 52	15. 07	6. 85
33	英語の先生から、前もって準備していない質問をされるといらいらします				
	10. 27	32. 88	27. 40	22. 60	6. 85

上の表をもとに結果を整理することにしよう。まず、英語の授業で話す際に不安を感じている学生がかなりいる。たとえば、「英語の授業で話すとき自信がありません」(30.13%)、「準備なしで授業に出席し、何かを話さなければならない時、うろたえます」(28.08%)、「他の学生の前で英語を話す時は、人前を気にし、とてもてれくさい」(28.77%)、「英語を話すとき友達が笑わないかと心配です」(35.61%)のように、話すことにはかなりの不安を示している。「英語の授業で話す時、いらいらし混乱します」(50.00%)では、かなり高い神経質さを表している。こうした不安を和らげるには、教師が話す過程で解答のヒントを与えたり、学生にあせらずに落ちついて話すようにさせる配慮が必要であろう。

ただ、この項目で、英語の授業で話すのに自信をみせる学生(52.74%)、授業で準備なしでも、うろたえない学生(48.63%)、他の学生の前でも、てれくさがらない学生(45.21%)もかなりいた。外国人との接触でも、「アメリカやイギリスの人と、びくびくせずに英語で話せます」(55.48%)と「アメリカやイギリスの人が側にいても、心地よく感じます」(33.56%)のように、不安はあまりないようである。これは外国人への慣れを示しているものと思われる。

不安を強くもっている学生は、自分を低く評価する傾向にある。たとえば、「友達は自分より英語ができるといつも思っています」(31.51%)と「友達の方が自分より英語を上手に話せると思っっている」(26.71%)の項目にその特徴がみられる。しかし、前者と後者についてそうは思わないという学生もかなりいた(35.61%, 39.72%)。

英語授業での失敗や誤りについてかなり不安に感じていることがわかる。「英語授業に失敗したら気になります」(39.72%)と「英語の先生が、私の誤りを全部直すのではないかと不安になります」(40.41%)にみられるようにかなり強く不安に思っている。

他教科に比べ英語の授業に緊張感をおぼえ、ルールを覚えなければならないことに不安を感じている。そのことが「他の授業より英語の授業の方が緊張します」(36.30%)と「英語を話すためには、沢山のルールを覚えなければならないので打ちのめされます」(40.41%)にみられるように強い不安を示している。英語のテストと単位を落とすことにも不安を感じている。「英語のテストがあると、緊張します」(31.50%)や「英語のテストの勉強をすればするほど混乱します」(45.89%)、「英語の授業で、単位を落とすのが気になります」(31.51%)のようにかなりの学生が心配している。また、「英語の授業でテストがあっても、緊張することなく受けています」(46.57%)もかなりいた。

英語の授業での教師の指名に、体や心臓が震え、教師の質問にいらいらし、かなりのとまどいを表している。したがって、教師の訂正や明確な視点をもたない質問は学生を不安にさせることになるだろう。たとえば、「英語の授業で指名されると、体が震えます」(40.41%)とか、「英語の授業で指名されると、心臓がどきどきします」(32.87%)、「英語の先生から、前もって準備していない質問をされるといらいらします」(43.15%)、「先生がどこを直してくれるかわからないと、おろおろします」(34.49%)などと答えている。

英語の授業そのものについても、いくつかの不安が現れている。たとえば、「英語の授業に出たくないと思うことがよくあります」(43.15%)や「たとえ授業の準備をしても、心配です」(34.93%)、「英語の授業では、知っていることを忘れるほど神経質になることがあります」(34.25%)、「英語の授業中、授業と関係ないことを考えることがあります」(28.77%)などのように、英語の授業に出たくなかったり、授業の準備をしても心配になり、授業中に知っていることを忘れるほど神経質になっている。英語の授業で、他のことを考え集中度を欠いている学生もいる。

授業そのものへの心配があるのとは反対に、リラックスして授業に出席したり、授業の予習をしたりする学生もいる。たとえば、「英語の授業に向かうとき、自信がでてリラックスした気分になります」(38.36%)とか、「もっと英語の授業を履修してもかまいません」(28.08%)、「プレッシャーを感じることなく、英語の授業の予習をします」(28.76%)のような反応である。このように不安をあまり感じない学生は、約30~40%程度いることがわかる。

教師のしゃべる英語の単語がわからないと不安になる。「先生のしゃべる英語の単語が一つでもわからないと心配になります」(44.52%)、と言っているが、神経質な学生ほど単語が一つでもわからないと不安になってくるようである。不安の強い学生ほど、単語をすべてわかろうとする。また、学力の低い学生ほど、すべての単語がわからないと落ちつかないと考えられているが、学力と不安の関係を明らかにする必要がある。

英語の授業で、教師の言っていることがわからないと不安になり、授業の早い進捗にも不安を示している。たとえば、「英語の授業で、先生の言っていることがわからないと怖くなります」(45.20%)や「英語の授業が速く進むので、取り残されるのではないかと心配になります」(9.73%)のようになっている。ただ、授業の進捗については、不安をもつ学生の割合が低い、教師が学

## 英語学習における不安について

生の能力等を考えて授業を進めていることが考えられる。英語の授業における自発性については、「英語の授業で、自発的に答えるのはてれくさいです」(27.40%)となっているが、授業で自由に発表できる雰囲気づくりが望まれる。

### V. 考察

英語学習における不安について分析した。不安には、緊張、動悸、汗かき、不眠といったことが含まれるが、本研究では、緊張と動悸を含め33項目にわたる不安について、その特徴を明らかにした。まず、不安が強い学生は英語の授業で話すことを恐れている。たとえば、英語の授業で話すとき混乱する学生が50.00%、英語を話す友達に笑われないか心配になるが35.61%、他の学生の前で英語を話すてれくさいが28.77%となっている。こうした学生は、友達のいるところで話すとき、失敗をすることを恐れているのであろう。

いろいろなことが気になる学生は、他の学生よりも自分の学力を低くみる傾向にある。MacIntyre (1997: 280, 2002: 557)も、不安をもつ学生は自分の学力を低く評価すると述べている。たとえば、友達の方が英語ができると思うが31.51%、友達の方が英語を上手に話すと思うが26.71%であった。こうした不安をもつ学生は、結果的に英語学習を敬遠し、学習しても効果が上がらないと否定的な気持ちになる可能性がある。したがって、教師は学生の言語行動を肯定的に評価し、元気づけるようにし、動機づけを高めてやるような指導が必要である。

ところで、外国人と話すときには、不安はあまり感じないようである。たとえば、アメリカやイギリスの人とびくびくせずに英語で話せる学生が55.48%、彼らがいても心地よく思う学生は33.56%となっている。最近の学生はマスメディアの影響や、本学に4人の外国人教師がいて日常的に触れ合うことの影響が考えられる。Horwitz, Horwitz and Cope (1986)では、外国人と外国語でびくびくせずに話すのは17%で、びくびくして話すのが66%、外国人が側にいても心地よく感じるのは28%で、感じないのは52%である。したがって、本調査の結果と逆の現象が出ている。これは学生の英語学力やコミュニケーション能力に関係している差かもしれない。

他の教科に比べ、英語の授業の方が緊張したり、沢山のルールを覚えなければならないので、心理的な圧迫感を抱いている。他の授業より緊張する学生が36.30%、英語を話すため沢山のルールを覚えなければならないので打ちめされる学生が40.41%である。教師には、できるだけリラックスした雰囲気を創り出す努力が求められる。また、文法ルールを少なく提示することで、学生の負担を軽くすることを心がけるべきであろう。

英語の単位取得とテストについては、かなりの動揺がみられる。英語の単位を落とすのが気になる学生が31.51%、英語のテストで緊張する学生31.50%、英語のテストの勉強をすればするほど混乱する学生45.89%であった。こうした学生の不安を軽減するには、テストについて何を重視しているかや、テストの範囲についても学生にとって負担にならないような工夫が必要となろう。評価についても日常の授業での活動をテストと同様に評価することで、単位を落とすことを少な

くすることも不安を軽くする方法の一つである。

授業中の失敗や誤りについても不安が生じている。英語の授業で失敗すると気になる学生は 39.72%で、先生が英語の誤りを全部直すのではと心配する学生は 40.41%で、不安がかなり強い。このような学生は、自分がいつもテストされていると思い、教師が学生の誤りを訂正することに不安を抱いている。この不安を軽くするには、英語学習の過程では失敗や誤りをすることが自然であることを認識させるようにすべきであろう。英語の授業中の指名で緊張したり、心臓がドキドキする学生がかなりいる。すなわち、指名されると体が震えるが 40.41%、心臓がドキドキするが 32.87%、準備していないことの質問へのいらいらが 43.15%、どこを訂正されるかわからない不安は 34.49%である。こうした不安に対して、教師は柔らかい雰囲気の中で、丁寧な指名の仕方や質問、訂正箇所の焦点を明確にするよう心がけるべきであろう。

授業そのものに対する不安も生じている。英語の授業に出たくないと思う学生が 43.15%、授業の準備をしても心配が 34.93%、授業中に知っていることを忘れるほど神経質になるが 34.25%である。英語の授業を魅力的にする工夫が求められるが、そのためには、視聴覚教具の効果的な利用や学生のレベルに合った授業への配慮も必要である。ただ、リラックスした気分で授業に参加する学生が 38.36%、英語の授業をもっと受けたい学生が 28.08%、プレッシャーを感じることなく予習する学生が 28.76%いる。こうした学生に対しては、学習の成功感を味わえるようにし、楽しい雰囲気にできるだけ多く触れさせることが肝要であろう。

教師の言うことがわからなかったり、進度が速いため、自発的発言へのとまどいが現れている。先生の言っていることがわからない不安が 45.20%、速く進むのでついていけない心配が 9.73%、自発的発言をするときのとまどいが 27.40%あった。授業での進度についていけない学生の割合は比較的少ないが、少なくとも理解できない学生がいる以上、進度を少し緩めるとか個別指導を取り入れることを教師は考えるべきであろう。

以上分析結果について考察したが、なにはさておき、学生は不安に思う学習活動を避けようとするであろう。学生の低い言語行動や学習活動を、学生の能力の欠如、不適切な学習背景、動機の無さといったことに理由づけする前に、ここで明らかにしたような行動から学生の不安が生まれることを、教師は確認することが大切である。こうした学生の英語学習における不安を和らげるためには、気分を和らげる練習、学習の仕方に対する助言、LL 教室使用による作業を通して成功感を体験させるような方法が考慮されなければならない。

英語の授業でテスト等による評価は避けられない以上、不安というものは無くならないであろう。したがって、教師は学生の不安の源を見出すため教室の雰囲気を察知し、学生を支援する仕組みを考え出す努力が求められる。不安を抱く学生に宿題を延期するとか、クラスで話させることをやめたり、席の後ろに座るのを許したりするのも一つの方法である。国際語としての英語とか、コミュニケーションとしての英語学力の習得ということから、最近では英語の授業で英語を発表することが強調されている。しかし、本研究結果から、そうした活動に不安を抱く学生がか



## 英語学習における不安について

なりいることがわかった。強い不安を持つ学生には恐怖感を与えることになる可能性がある。いろんなことが気になり心配性の学生には、こうしたことが不安を生む原因になっている。英語学習の不安は、教師が学生の孤独感を知り、英語学習の自信をとりもどすための具体的助言を知っていれば、軽減されることになる。

### VI. 今後の課題

本研究では、コミュニケーションの不安、テストに対する不安、英語授業における否定的評価の恐怖という三つの視点から、33項目の不安要因をもとにその特徴を分析した。これら不安項目の中で、40%以上の不安は8項目、30%~40%は18項目、20%~30%が6項目、20%以下は1項目であった。このことから、多くの項目で不安が顕著に現れていることがわかる。この中で、20%以下の「英語の授業は早く進むので、取り残されるのではないかと心配になります」(9.73%)では心配する学生数は少なかった。これに対して心配にならない学生は33.56%で多いことから、学生の学力に合った授業の進め方が採用されていると考えてよかろう。学生の学力に合った授業でないと学力がつかないことになるからである。

調査結果で意外だったのは、外国人や外国人教師に対する意識である。「アメリカやイギリスの人と、びくびくせずに英語で話せます」(55.48%)、「アメリカやイギリスの人が側にいても、心地よく感じます」(33.56%)で、学生は外国人に対して不安を感じていない学生が多いことである。Horwitz, Horwitz and Cope (1986)によると、びくびくして外国人と話す学生が66%で圧倒的に多い。外国人が側にいると落ちつかない学生も52%で多い。考察でも述べたように、最近の学生がテレビなどのメディアを通して外国人を見る機会が増えたためかもしれない。本学では、一般教育の英会話が必修で、1年か2年で4人の外国人教師のいずれかに接することになることが影響しているのかも知れない。あるいは、外国人教師との英会話では評価を気にしないで授業に参加しているのか、学生自身の学力が低いため外国人教師の授業をあまり気にしていないのかも知れない。これらの問題については、今後解決しなければならないものである。

不安項目についての度合いを述べてきたが、逆の不安でないという項目もかなりあった。たとえば、「英語の授業で話をするとき自信がある」(52.74%)、「準備なしで、授業に出席し、何かを話さなければならない時、うろたえない」(48.63%)、「単位を落とすのが気にならない」(56.85%)、「英語の授業で、自発的に答えるのはてれくさくない」(45.89%)、「授業の準備を充分してくれば、心配ではない」(39.72%)、「指名されても心臓はどきどきしない」(43.15%)、「友達の方が自分より英語を上手に話せると、思っていない」(39.72%)、「他の学生の前で英語を話す時は、人前を気にしない」(45.21%)、「他の授業より英語の授業の方が緊張することはない」(41.09%)、「英語を話すとき友達が笑わないかと心配することはない」(37.67%)など10項目については、不安をあまり感じていなく、約40%以上にのぼっている。

これらのことは、授業そのものがなごやかな雰囲気の中で実施されているための現象なのか、

英語の授業を他の教科の授業と区別することなく受けているものと思われる。また、友達の前で話すことを心配しない学生がかなりいることは望ましいことである。単位を落とすことをあまり心配していない学生が半数近くいるが、単位が取り易いと楽観しているのか、単位が取れるかどうかにはあまりこだわらないのか、学力が低いので気にならないのか。あるいは授業内容がわからないままで楽観しているのではなかろうか。ルソー(1950: 314)は「災いは生徒が理解していないことではなく、十分理解していると考えていることなだけだからである」と言っている。英語を話す時や単位を落とすことが気にならない、授業も緊張しないとしているが、英語がわかってそうであればよいが、実際は理解していないことが多いのではなかろうか。それであれば、学生のわかったような表情に納得するのではなく、学生とのコミュニケーションを通して、授業内容を理解させる努力が教師に求められる。心配しないのは望ましいことではあるが、今後この点についても分析する必要がある。

本研究で不安要因の特徴が明らかになったが、対象の学生は英語のリーディングカリスニングを中心に学習していた。したがって、コミュニケーション能力についての反応は明確に出ているとはいえない。ドイツ語とスペイン語を学習している学生を対象にした Scovel (1978: 132)の研究によると、不安が audio-lingual method と負の相関を示し、伝統的な訳読方式とは正の相関を認めている。このことは、口頭で英語を発する技能では不安が高まり、伝統的な教授法では、英語による口頭発表をしないことで不安が起らないことを示唆している。このことは、コミュニケーション能力を養成するために不安を軽減する方策を講じる必要性を示している。

教師の話す英語の単語が一つでもわからなかったり、自発的に答えたりすると不安になり、教師の話や英語がわからないと不安になっている。Yashima (2004: 141)は、コミュニケーションの場面に適応できるかどうかの不安が、コミュニケーション能力を伸ばすことに関与しているとしている。MacIntyre, Clemen and Donovan (2002: 539-540)も、コミュニケーション活動で強い不安を抱く学習者はコミュニケーションを避けようとするを明らかにしている。しかも、学習者自身コミュニケーション能力を低く見る傾向にある。したがって、不安を軽減することは、WTC (Willingness to Communicate) を高めコミュニケーション能力を習得することにつながる。英語による話や外国人教師の前で話す不安を除く方策が今後研究されなければならない。すなわち、外国人教師の授業でどのような不安が生じ、それを軽減することがコミュニケーション能力を高めることになるかを明らかにすることである。

さらに、MacIntyre and Gardner (1989: 271)は、口頭学習、ライティング、記憶再生で強いプレッシャーを感じる学生は、弱いプレッシャーを感じる学生よりも言語行動が鈍かったことを報告している。また、教師の指名についても学生に緊張をもたらしていることが、英語学習の評価に関係しているかどうかを明らかにする必要がある。MacIntyre and Gardner (1994: 301)も外国語学習におけるクラスの評価と標準テストの結果が不安と負の相関があることを示している。さらに、外国語学習における input, processing, output の3段階の学習効果の不安との関係を

## 英語学習における不安について

分析しているが、いずれの段階でも心配性の学生は、気分を楽に持つ学生よりも外国語の知識が劣り、外国語についての説明に困難を感じるようである。

不安の研究から Scovel (1978: 137) は学習作業が易しいと学習を助長するが、学習作業が難しくなると言語活動が弱くなることを明らかにしている。したがって、学習活動と教材の難易、学力の高低の観点から不安との関係を明らかにすることが必要である。たとえば、MacIntyre and Gardner (1989: 269) の言うように、強い不安をもつ学生には、教材を復習することにより、間違っただけの方に向けた学生の注意を修正することにより不安を軽減することも考えられよう。また、学生の反応時間を多く与えることで不安を少なくすることもできよう。

英語学習における学生の不安の特徴が明らかになったが、本研究の結果と Horwitz, Horwitz and Cope (1986) が分析対象としたアメリカ人学生の結果が異なるのをどのように受け止めたらよいのであろうか。たとえば、英語の失敗をしたら気になるが 39.72% であるが、アメリカの学生は 65% であった。英語の授業で、先生の言っていることがわからないと怖くなるは 45.20% であるが、アメリカの学生は 30% である。単位を落とすのが気になるのは 31.51% に対して、アメリカの学生は 42% である。知っていることを忘れるほど神経質になるは 34.25% だが、アメリカの学生は 57% でかなり高い。こうした違いは、両国の学生の外国語教育に対する動機づけの強弱、学生の学力の高低等が関係しているものと思われる。したがって、このような結果の違いから、一般に分析された結果が安定したものとして認められていることも、分析対象が異なると違った結果になる可能性がある。本研究の結果とかなり異なる結果をみるにつけ、学習環境、学力、モチベーション等が異なる学習者それぞれの不安の特徴を明らかにすることが求められよう。

最後に、いずれでもない中間的態度を示した 5 段階評価の 3 を選んだ学生についてである。3 項目のうち 40% 以上を占めるものが 3 項目あった。もっと英語の授業を履修してもかまわないに対する中間的態度が 40.41%、プレッシャーを感じることなく、英語の予習をするという項目の中間的態度が 47.26%、アメリカやイギリスの人が側にいても、心地よく感じますの項目が 44.52% であった。Horwitz 等のアメリカの学生だと、それぞれ 20%、19%、20% となっている。日本人学生における 30% 台の中間的意識はさらに多くなる。本学の学生とアメリカの学生とのこの意識にはかなりの差がある。それが何によるのかを明らかにする必要がある。また、こうした意識を望ましい方へ変えるにはどうするか、今後解決しなければならない課題である。なお、被験者の数が少なかったことから、さらに多くの被験者を対象にしてこの問題を分析することが必要である。

本研究の統計処理で、藤岡准教授のお手を煩わせたことに深謝いたします。

## References

- Burt, Marina, Heidi Dulay and Mary Finochiaro (1977), *Viewpoints on English as a Second Language*, New York: Regents Publishing Company, Inc.
- Chastain, Kenneth D. (1975), "Affective and Ability Factors in Second Language Acquisition," *Language Learning*, 25:1, 153-161.
- Dulay, Heidi and Marina Burt (1977), "Remarks on Creativity in Language Acquisition," Burt, M. Marina, Heidi Dulay and Mary Finocchiaro (eds.) (1977: 95-126).
- Hamayan, Else, Fred Genesee and G. Richard Tucker (1977), "The Effective Factors and Language Exposure in Second Language Learning, of affect on Foreign Language Learning," *Language Learning*, 27:2, 225-241.
- Horwitz, Elaine K., Michael B. Horwitz and Joann Cope (1986), "Foreign Language Classroom Anxiety," *The Modern Language Journal*, 70:2, 125-132.
- Kleiman, Howard H. (1977), "Avoidance Behavior in Adult Second Language Acquisition," *Language Learning*, 27:1, 93-107.
- MacIntyre, Peter D. and R. C. Gardner (1989), "Anxiety and Second-Language Learning: Toward a Theoretical Clarification," *Language Learning*, 39:2, 251-275.
- MacIntyre, Peter D. and R. C. Gardner (1994), "The Subtle Effects of Language Anxiety on Cognitive Processing in the Second Language," *Language Learning*, 44:2, 283-305.
- MacIntyre, Peter D., Kimberly A. Noels and Richard Clement (1997), "Biases in Self-Ratings of Second Language Proficiency: the Role of Language Anxiety," *Language Learning*, 47:2, 265-287.
- MacIntyre, Peter D., Susan C. Baker, Richard Clement and Leslie A. Donovan (2002), "Sex and Age Effects on Willingness to Communicate, Anxiety, Perceived Competence, and L2 Motivation among Junior High School French Immersion Students," *Language Learning*, 52:3, 537-564.
- Pimsleur, Paul, Ludwig Mosberg and Andrew L. Morrison (1962), "Student Factors in Foreign Language Learning," *The Modern Language Journal*, 46:4, 160-170.
- Scovel, Thomas (1978), "The Effect of Affect on Foreign Language Learning: A Review of the Anxiety Research," *Language Learning*, 28:1, 129-142.
- Shigesako, Takashi and Yoshimura Masahito (1998), "Attitudes and English Learning Background of College Students (II): Their Interest in Language and Culture," *Bulletin of the Research Center for Human Science, Fukuyama University*, 13, 88-94.
- Shohamy, Elena (1982), "Affective Consideration in Language Testing," *The Modern Language*

## 英語学習における不安について

*Journal*, 66:1, 13-17.

Yashima, Tomoko, Lori Zenuk Nishide and Kazuaki Shimizu (2004), "The Influence of Attitudes and Affects on Willingness to Communicate and Second Language Communication," *Language Learning*, 54:1, 119-152.

Yoshimura, Masahito and Shigesako Takashi (1998), "Attitudes and English Learning Background of College Students: The First Step toward the Improvement of English Language Teaching in College," 『福山大学一般教育紀要』第22巻、45-61.

片山嘉雄・遠藤栄一・佐々木昭・松村幹男 (1994) 『新・英語科教育の研究』大終館書店.

吉田一衛 (2006) 「低学力学習者のリーディングにおける認知的特徴」研究からの示唆 『福山大学人間文化学部紀要』第6巻、77-93.

ルソオ (1950) 『エミール』第三篇(平林初之介訳) 岩波書店.

重 迫 隆 司・吉 田 一 衛・三 浦 省 五

## **Anxiety in Learning English as a Foreign Language**

Takashi SHIGESAKO, Kazue YOSHIDA and Shogo MIURA

This study analyzed English language anxiety from the point of view of communication anxiety, test anxiety and negative evaluation in English language teaching. Its result clarified several features on anxiety of speaking by students in an English classroom, test anxiety, anxiety of losing English credit, anxiety about English learning itself, and anxious student's own evaluation lower than his friend's. It was found that some research items were different in the degree of anxiety between our university students and American students. As a way of reducing anxiety, teachers need to repeat teaching materials and to spend more time on learning and teaching for students' understanding of English language learning.

[Key word: English language learning, anxiety, understanding of teacher's English, tension, speaking in classroom]